

医療用マスク活用して

多治見RC 県立多治見病院に寄贈



近藤泰三院長にマスクを手渡す市原好二会長(中央)と村手洋之幹事＝多治見市前畑町、県立多治見病院

多治見ロータリークラブが、県立多治見病院(多治見市前畑町)に医療用マスク3300枚(100万円相当)を寄贈した。同クラブの市原好二会長と村手洋之幹事が病院を訪れ、近藤泰三院長にマスクを手渡した。

同クラブは新型コロナウイルスの影響で3月中旬から活動の自粛が続ぎ、本来使はずだった活動費の一部をマスクの購入に充てることにした。市原会長は東濃信用金庫理事長を務めて

おり、全国の信用金庫のネットワークを使い、東京の信用金庫の取引先企業が確保したマスクを購入した。

マスクを手渡した市原会長は「県立多治見病院で医療用の防護服やマスクが少なくなっていると聞いた。

(コロナウイルスで)長い闘いが続くので役に立てれば」と話した。近藤院長は「今は感染の第2波に備えて態勢を整えている段階。寄贈に感謝したい」とお礼を述べた。(山本貴史)